

ダイコン（平坦地冬まき）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平坦地冬まき作型												
主な作業	間引き	換気	ト除 ン去 ル	収 穫								播ト被 種ン覆 種ネ ル

技術体系

1 作型の特徴

栽培期間中に気温が上昇する作型であるが、初期に花芽分化を誘発する低温期間が含まれる。大根の花芽分化は種子感応性であるので、トンネルやマルチを早めに準備して地温を上げておくとともに、播種から生育初期にかけて保温し、その後は保温と換気をうまく行い、徒長させないことが大切である。

品種は晩抽性で低温伸長・肥大性が優れるものを用いる。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

（1）温度 平坦地秋まき参照

耐寒性は強く、葉は0℃でもほとんど被害がないが保温に努め適温域を維持する。平均25℃以上の換気不足条件下では病害が発生しやすくなる。

＊花芽分化は、低温で誘起されその温度範囲は0～12℃であり、最適温度は5℃前後である。低温感応性は発芽～子葉展開期が敏感で、多くは5℃・3週間以内で花成が進む。春化途中の高温（20℃以上）は、低温の効果を打ち消す。抽だいは高温長日で促進される。

（2）光 光不足は軟弱徒長し、根の肥大が

不良となる。

（3）土壌 耕土が深くて、保水性・排水性の優れた膨軟な土質が適する。

4 施設装備

トンネル、マルチ栽培

5 経営目標

- | | |
|-----------|-------------|
| （1）収量 | 5.0 t / 10a |
| （2）投下労働時間 | 138 時間 |
| （3）所得率 | 29 % |
| （4）経営規模 | 50 a |

（家族労働力3人の場合）

栽培技術

1 品種と特性

「春風太」

低温伸長性・肥大性に優れる極晩抽性で耐寒性が強い品種。‘す入り’は極めて遅い。抽根部は吸い込み性で短く、肩張りが良い。根長40 cm、根径7 cm、根重1.3kg程度となる。

「春慶」

晩抽性が強く、‘す入り’が遅い。葉は小葉で濃緑、葉数が多く開張性なので抽根部の傷みが少ない。根長37～40 cm、根径7～8 cm、根重1.2kgと

なる尻詰まりの良い青首総太り大根である。

2 本圃の準備

(1) 圃場準備

岐根及び曲がり根の発生がないように、深耕と十分な碎土、ていねいな整地が必要である。完熟堆肥を1ヶ月前に10a当たり2t投入し、有機質に富む土壌とする。未熟堆肥は奇形、肌荒れ等根の障害要因となるので使用しない。この作型は、トンネル被覆をするため、土壌消毒後のガス抜きは播種20日前までに行う。

(2) 施肥

(kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	15	20	15	

*全量基肥とする。

基肥は、全面施用し、深耕しておく。施肥量は、土壌診断結果により加減する。

(3) 畦作りとマルチ

栽植様式

	トンネル幅	畦幅	株間×条間
2条植え	1.8m	120cm	30×45cm 有孔マルチ
3条植え	2.7m	150cm	30×30cm 有孔マルチ
4条植え	2.7m	180cm	〃 〃

*畦幅は、溝間は含まないので、トンネル支柱や作業性を考慮し、40～60cmの溝幅をとる。

3 播種

播種は、1穴3粒播きし、軽く覆土・鎮圧する。

10a当たり種子量0.7～1リットル

4 間引き

草勢の強すぎるものや弱いもの、病害虫を受けたもの、胚軸の曲がったもの、徒長したものを対象に、本葉5～6枚頃に1本にする。

5 温度管理

ダイコンは、生育ステージによって適正温度が異なるので、時期に応じた温度管理が必要である。

特に低温期の日中は、トンネル内を20～25℃

以上の高温管理することで、抽苔を回避させることができます。

温度の下がりすぎには注意！！

	生育前期	生育中期	生育後期
気温	30℃	25℃	20℃
地温	28℃	16℃	

(1) 生育前期

播種後1ヶ月間くらいまでは、定期的に換気する程度で密閉し保温に努める。

最高気温が25～30℃程度となるよう管理し、抽だいを回避する。

(2) 生育中期

日中25℃を目安に、換気を開始する。換気が少ないと、高温による葉焼けや病気の発生、根の肥大遅延の原因となる。

また、急激な換気はダイコンの生育に悪影響を与えるため、徐々に換気を増やす。

(3) 生育後期

本葉が20枚以上になると、根部肥大最盛期となる。日中20℃を目標に換気を行い、生育後期には固定換気に移行する。4月になるとトンネルは除去する。